

病害虫発生予察指導情報

(ナシ・クワコナカイガラムシ No. 2)

平成28年7月1日
鳥取県病害虫防除所

1. 情報の内容

クワコナカイガラムシ第一世代幼虫のふ化が平年よりやや早い6月30日(平年:7月5日)に始まった。昨年、果実被害が多く認められた園では防除を徹底する必要がある。

2. 情報の根拠

- (1)クワコナカイガラムシ第一世代幼虫のふ化*が平年よりやや早い6月30日(平年:7月5日)に認められた。
- (2)向こう1か月の気象予報から、第一世代幼虫のふ化最盛日は、平年よりやや早い7月5日頃(平年:7月10日)と見込まれる。

*クワコナカイガラムシ第一世代卵のうからのふ化は、百葉箱内(園試)で観察。卵のうをシャーレ中央に静置し、その周囲に粘着物質を塗布、その粘着物質に捕獲された幼虫数を計数。卵のうは百葉箱内で飼育している系統を用いた。

3. 防除上注意すべき事項

- (1)昨年被害の多かった園及び多発園では、5~10日間隔で発生状況を確認しながら次の時期を目安に2回の防除を行う。

幼虫ふ化最盛期	7月 5 ~ 9日
幼虫ふ化終期	7月10 ~ 14日

少発園では7月10日前後に1回防除を行う。
- (2)薬剤はモスピラン顆粒水溶剤4,000倍液、ダズバンDF4,000倍液、スミチオン乳剤1,500倍液などを使用し、連用を避けて輪番散布する。
- (3)薬剤の散布に当たっては、カイガラムシが集合する枝葉の他、枝の切り口、粗皮などにも十分にかかるようにする。
- (4)農薬の散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守する。